

近現代史(23) アジア諸地域の動揺③ ～東南アジアの植民地化～

(1) 東南アジアにおける植民地形態の変化

初期	変化後
香辛料獲得 ↓ [1. <u>商業権益の拡大</u>]	[2. <u>領土の獲得</u>] ↓ 一次産品の生産・植民地産品が世界市場に結合

(2) オランダのジャワ島獲得

- ① 16世紀末 オランダ ジャワ島に到達。[3. 香辛料]の獲得をねらう
- ② 17世紀前半 [4. アンボイナ事件](1623)を契機にイギリスに優越し、領土獲得に乗り出す。
- ③ 18世紀半ば [5. マタラム王国]を滅ぼしオランダはジャワ島の大半を直接支配下に置く。

(3) オランダのジャワ島支配

- ① 19世紀 商品作物の導入(コーヒー、サトウキビ、藍など)
 →オランダ政庁、買い上げ価格を一方的に決め、生産者サイドはきわめて不利な立場。
- ② [6. 強制栽培制度]…オランダ政庁は栽培すべき作物の種類と土地、生産量、必要な労働者の数などを支持し、生産物を低い支持価格で徴収。オランダは莫大な利益をあげたがこれによりジャワ村落は食料の自給がしばしばできなくなり、大きな困難を背負わされた。
 - ☆実施した要因1. [7. ジャワ戦争](1825～1830)：オランダ支配への大規模な反乱により財政状況が悪化。その立て直しのため植民地経営に転嫁した。
 - ☆実施した要因2. [8. ベルギーの独立](1830)：ウィーン会議でオランダはハプスブルク家から南ネーデルラントを獲得していたが、七月革命の影響でベルギーとして独立してしまった。その負債を回収しようと植民地経営に転嫁した。

(4) イギリスの支配 ～マレー半島とミャンマー～

① マレー半島周辺

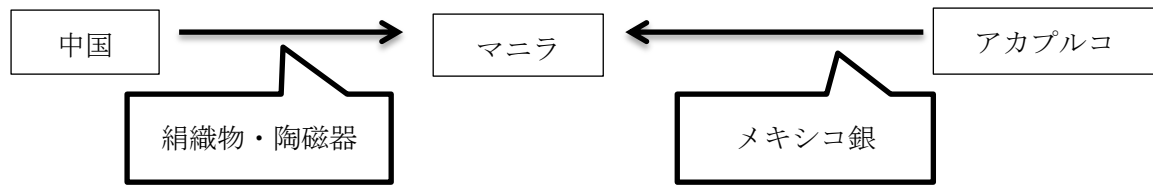
- 18世紀末～19世紀初め…[9. ペナン・マラッカ・シンガポール]を獲得。ジャワを占領。
 1824年 [10. 英蘭協約]…ナポレオン戦争後、東南アジアの勢力範囲を確定。マラッカ海峡を境界として、北側のマレー半島がイギリスの勢力圏、南側のジャワ島・スマトラ島などがオランダの勢力圏となった。
- 1826年 [11. 海峡植民地]…ペナン・マラッカ・シンガポールをあわせて成立させた植民地。
 1870年代 [12. 港市支配]から[13. 領域支配]へ転換。
 ・錫の利権をめぐる中国人とマレー人スルタンに介入。
- 1895年 [13. マレー連合州]…マレー半島を保護領化して組織。
 20世紀 インドから大量の移民(A. 印僑)を導入し、広大な未開地をゴム・プランテーションとして開発。

② ミャンマー

- ・インド帝国へミャンマーを併合…アッサムに進出した[15. コンバウン朝]を三次にわたるビルマ戦争で併合。
- ・ミャンマー開発…南部のデルタ地帯の水田稲作開発を進めて世界市場に組み込む。

(5) スペインのフィリピン支配

① [16. アカプルコ貿易]…メキシコ銀を [17. マニラ] に運び、マニラに集まってきた中国の商船や中国人在住者を仲介にして、中国産の絹織物や陶磁器などを得て、アメリカ大陸へ運ぶ太平洋ルート。



② 統治政策

- ・ 政教一致体制
 - 住民を [18. カトリック] に強制改宗
 - 新しく統治組織をつくってフィリピン人を長とする。
 - スペイン人教区司祭が信仰から行政にいたるまで絶大な権限をふるう。

③ マニラ開港

- ・ 1834年、マニラを欧米勢力に開港
 - ・ 砂糖、マニラ麻、タバコなどの商品作物生産が一気に進み、世界市場に組み込まれることになった。
 - ・ 商人、高利貸による土地集積が進み、プランテーション開発が進んで [19. 大土地所有制] が成立。

(6) フランスのインドシナ支配

① 阮朝

1802年 [20. 阮福暎]、フランス人 [21. ピニョー] の助けで全土を統一、阮朝を立てる。

1804年 清朝の冊封を受け [22. 越南] 国王に封ぜられる。清の制度を導入し、行政制度を整備。

② フランスの軍事介入

1858～62 [23. 仏越戦争]…キリスト教徒迫害を口実に強引に軍事介入を始める。

↓
・ 1862 [24. サイゴン条約]…コーチシナ東部を獲得。サイゴンなど3港が開港。

・ 1863 [25. カンボジア] 保護国化

・ 1867 [26. コーチシナ西部] を征服 → コーチシナ全地域支配

1873～85 [27. 劉永福] の黒旗軍の抵抗 → 黒旗軍の鎮圧を口実にフランス軍が北部に進出

↓
・ 1883 [28. ユエ条約] でベトナム保護国化

1884～85 [29. 清仏戦争] 阮朝は清の冊封を受けていた(清の属国)ので、宗主権を主張して戦争。

↓
・ 1885 [30. 天津条約] で清はベトナムの宗主権放棄。冊封体制崩壊が始まる。

1887 [31. 仏領インドシナ] 成立(植民地化に成功したベトナムと保護国のカンボジアで構成)

↓
・ 1899 [32. ラオス] を仏領インドシナに編入。

(7) 植民地化を回避したタイ

① 門戸開放…伝統的な鎖国体制から19世紀後半に政策転換して自由貿易体制に入る。

② [33. モンクット王] (ラーマ4世) 政権

- ・ [34. ボーリング条約]…1855年、イギリスに治外法権を与えたものの、開国政策を推進。

③ [35. チェラロンコン] (ラーマ5世) 政権

- ・ 外国人顧問を招き国政改革 [36. 西欧化] を行い、国王専制支配体制を確立。
- ・ 英へ [37. マレー半島] を、仏へ [38. ラオスとカンボジア] を割譲し、妥協を図る。